

7. 「節約志向」「もったいない志向」「環境志向」に差はあるのか

7.1. 「節約」「もったいない」「環境」

既に 2.7 でも触れたように、本調査における回答者を、節水理由を軸に 3 分類することが可能と思われる。「水道料金を抑えるため」を 1 位に選んだ「節約志向者」、「水がもったいないから」を選んだ「もったいない志向者」、「環境を守るため」を選んだ「環境志向者」である。

当初、本調査においては節水を節約行動の一つと捉え調査設計を行った。しかし、回答を見ると、動機により回答者の自身の節約行動に対する認識が異なっている可能性がある。そこで動機、すなわち回答者が節水を大事だと考える理由にしたがって、節水には「節約」「もったいない」「環境」という主には三つの志向が重なりあった意識であることが示唆される。

「節約」とは、生活に余裕が無いなど何らかの事情により水の消費量を意識的に減らすことを意味する。儉約である。一方、「もったいない」は、「むやみに費やすのが惜しい」という意味で、節約を意識していなくてもむやみに費やしていなければ「もったいない志向者」は節水していると思うかもしれない。「環境」とは、節水を地球環境との関わりで理解するが、自らの節水行為と環境現象との因果関係について意識しているとは限らない。

この三つの志向を回答者はそれぞれの質問において分離して答えているだろうか？特に節水を大事だと考える理由として、「節約」と「もったいない」を選択した回答者は共に多いのだが、双方の違いを分離して意識しているのだろうか？この点に注目して、本調査を次に再解釈してみたい。

7.2. 節水方法

「節約」「もったいない」「環境」の 3 志向者の選ぶ節約方法は異なるのだろうか。

表 21.3 志向者と節水方法のクロス 20 歳

	蛇口の水を出しすぎない	シャワーを浴びるときは、こまめに水を止めながら浴びている	風呂のお湯を洗濯や掃除に使い回している	風呂の水は沸かしなおして 2 日以上使う	園みがき中に水を出しっぱなしにしない	水洗トイレは消音のために水を流さない	水洗トイレを使うときは、大・小の水洗レバーを使い分けている	水洗トイレの水タンクに物(ペットボトル等)を入れて、1 回あたりの水量を減らしている	食器を洗うときは洗剤を水で薄めて、水を流しっぱなしにしている	野菜などをゆでたお湯を食器洗いやすすぎに回す	米のとぎ汁などを植木などに使う	雨水をためて使っている	節水型の家電製品に買い替えた	節水型の洗剤やシャンプー(すすぎが少なくて済む)などを使うようにしている	上記以外の節水	節水はしていない	
水道料金を抑えるため(n=159)	111 69.8%	72 45.3%	35 22.0%	17 10.7%	100 62.9%	36 22.6%	57 35.8%	4 2.5%	27 17.0%	11 6.9%	6 3.8%	1 0.6%	6 3.8%	5 3.1%	2 1.3%	23 14.5%	
水がもったいないから(n=128)	98 76.6%	77 60.2%	22 17.2%	13 10.2%	97 75.8%	34 26.6%	54 42.2%	9 7.0%	20 15.6%	10 7.8%	11 8.6%	4 3.1%	3 2.3%	3 3.9%	5 0.8%	1 7.0%	9 7.0%
環境を守るため(n=51)	37 72.5%	29 56.9%	14 27.5%	9 17.6%	38 74.5%	15 29.4%	28 54.9%	5 9.8%	10 19.6%	3 5.9%	8 15.7%	1 2.0%	3 5.9%	2 3.9%	0 0.0%	5 9.8%	

図 11.3 志向者と節水方法のクロス 20 歳

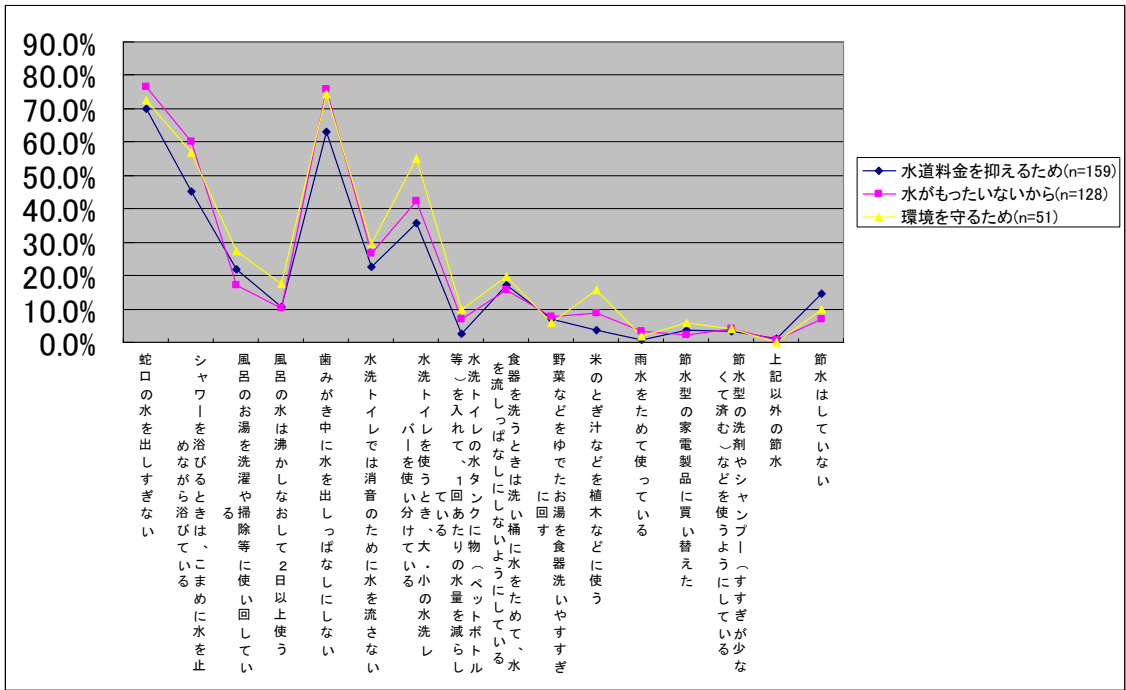
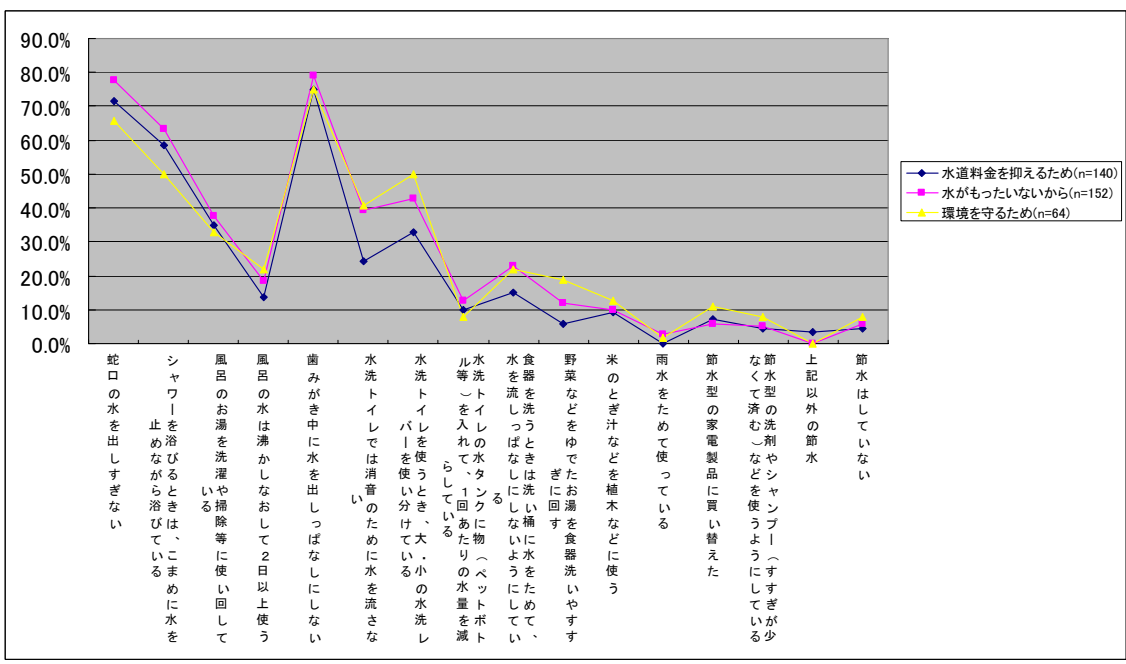


表 22.3 志向者と節水方法のクロス 30 歳

	蛇口の水を出しすぎない	シャワーを浴びるときは、こまめに水を止めながら浴びている	風呂のお湯を洗濯や掃除等に使い回している	風呂の水は沸かしなおして2日以上使う	歯みがき中に水を出しっぱなしにしない	水洗トイレのタンクに物(ペットボトル等)を入れて、1回あたりの水量を減らしている	水洗トイレを使うとき、大・小の水洗レバーを使い分けている	食器を洗うときは洗剤を絞って、水を流しっぱなしにしないようにしている	米のとき汁などを植木などに使う	野菜などをゆでたお湯を食器洗いやすすぎに回す	米のとぎ汁などを植木などに使う	雨水をためて使っている	節水型の家電製品に買い替えた	節水型の洗剤やシャンプー(すすぎが少なくて済む)などを使うようにしている	上記以外の節水	節水はしていない
水道料金を抑えるため(n=140)	100	82	49	19	105	34	46	14	21	8	13	0	10	6	5	6
	71.4%	58.6%	35.0%	13.6%	75.0%	24.3%	32.9%	10.0%	15.0%	5.7%	9.3%	0.0%	7.1%	4.3%	3.6%	4.3%
水がもったいないから(n=152)	118	96	57	28	120	60	65	19	35	18	15	4	9	8	0	9
	77.6%	63.2%	37.5%	18.4%	78.9%	39.5%	42.8%	12.5%	23.0%	11.8%	9.9%	2.6%	5.9%	5.3%	0.0%	5.9%
環境を守るため(n=64)	42	32	21	14	48	26	32	5	14	12	8	1	7	5	0	5
	65.6%	50.0%	32.8%	21.9%	75.0%	40.6%	50.0%	7.8%	21.9%	18.8%	12.5%	1.6%	10.9%	7.8%	0.0%	7.8%

図 12.3 志向者と節水方法のクロス 30 歳



節水方法を「節約」「もったいない」「環境」の3志向者に分けてみると、3志向者の間で回答のパターンが微妙にずれていることがわかる。例えば20歳では、「蛇口の水を出しすぎない」「シャワーを浴びる時にこまめに水を止めながら浴びている」「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」はわずかな差ながら回答率の高い順に「もったいない志向」「環境志向」「節約志向」の順となっている。一方「水洗トイレを使う時大小のレバーを使い分けている」は「環境志向」「もったいない志向」「節約志向」の順に分かれている。

20歳と30歳で異なるのが「水洗トイレでは消音のために水を流さない」で、20歳は3志向者とも20%台に位置しているが、30歳は「環境志向」「もったいない」「節約」の順でその差は約15%に及んでいる。

7.3. 節水の大事さを知る上で大事だと思う経験

では、3志向者は、節水の大事さを知る上で大事だと思う経験について、回答の差を生んでいるのだろうか。

表 23.3 志向者と節水の大事さを知る上で大事だと思う経験クロス 20歳

	自分で家計のやりくりをすること	水道料金がいくらかかっているかを知ること	小学校や中学校の教室で環境教育を体験すること	湧き水を飲む経験をする	田んぼの風景を見ること	稲作・畑作体験をすること	湧水の体験をすること	断水の体験をすること	家族に繰り返し「節水しなさい」と叱られること	テレビや新聞等で、飲み水に困っている人々の存在を知ること	浄水場を見学すること	わからない	上記以外の経験	節水を大事だと思ったことはない
水道料金を抑えるため (n=159)	119 74.8%	127 79.9%	47 29.6%	10 6.3%	6 3.8%	8 5.0%	44 27.7%	53 33.3%	18 11.3%	49 30.8%	16 10.1%	4 2.5%	4 2.5%	1 0.6%
水がもったいないから (n=128)	91 71.1%	104 81.3%	47 36.7%	17 13.3%	10 7.8%	11 8.6%	54 42.2%	64 50.0%	13 10.2%	53 41.4%	28 21.9%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.8%
環境を守るため (n=51)	31 60.6%	34 66.7%	28 54.9%	14 27.5%	7 13.7%	4 7.8%	24 47.1%	30 58.8%	5 9.8%	25 49.0%	10 19.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

図 13. 3 志向者と節水の大事さを知る上で大事だと思う経験クロス 20歳

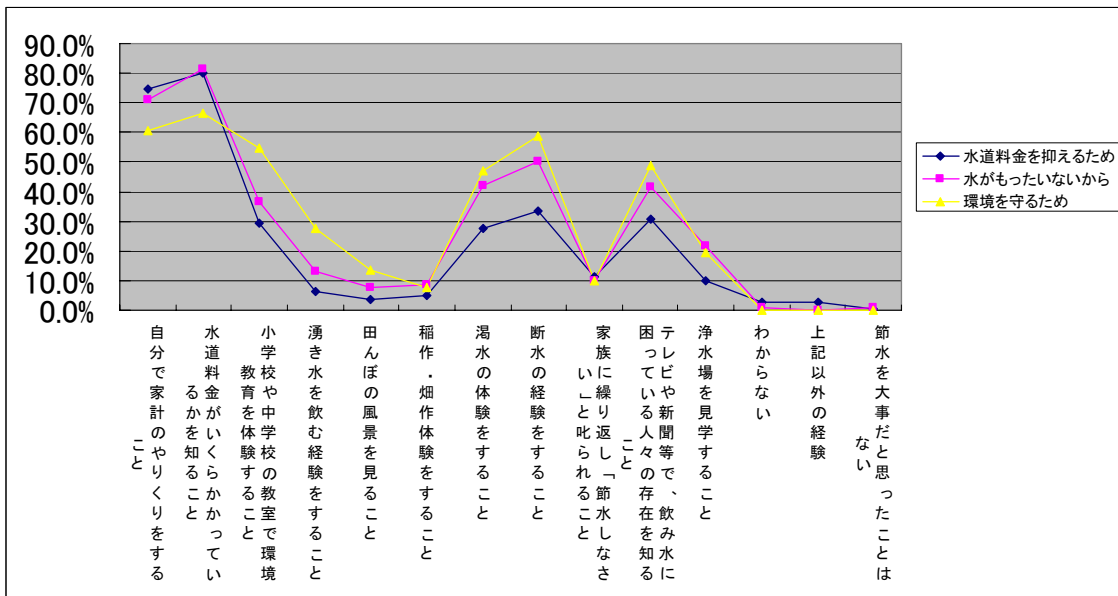
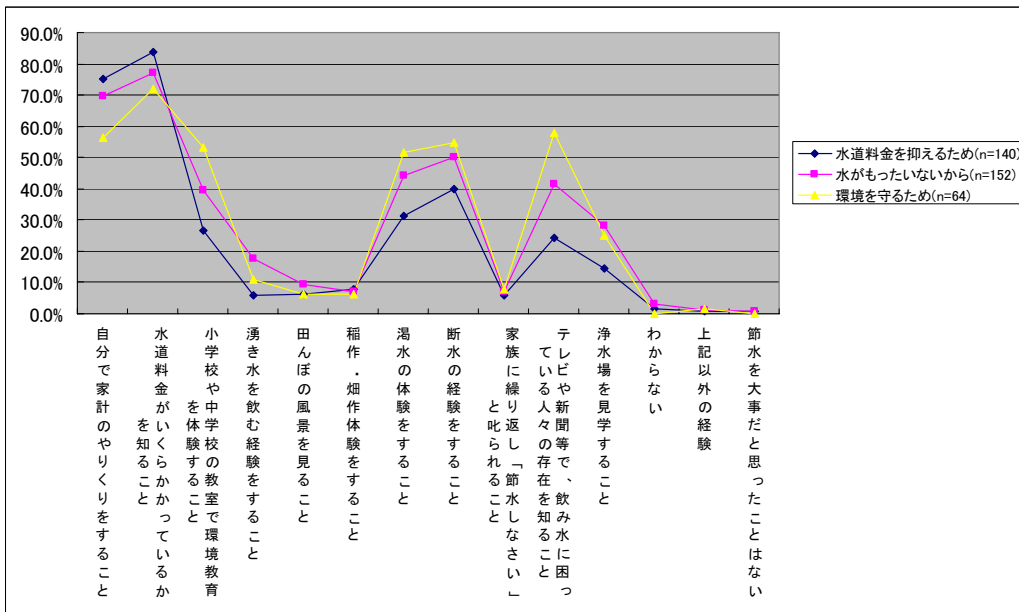


表 24. 3 志向者と節水の大事さを知る上で大事だと思う経験クロス 30 歳

	自分で家計のやりくりをすること	水道料金がいくらかかっているかを知ること	小学校や中学校の教室で環境教育を体験すること	湧き水を飲む体験をすること	田んぼの風景を見ること	稲作・畑作体験をすること	湧水の体験をすること	断水の体験をすること	断水の経験をする事	家族に繰り返し「節水しなさい」と叱られること	テレビや新聞等で、飲み水に困っている人々の存在を知ること	浄水場を見学すること	わからない	上記以外の経験	節水を大事だと思ったことはない
水道料金を抑えるため(n=140)	105	117	37	8	9	11	44	56	8	34	20	2	1	1	
	75.0%	83.6%	26.4%	5.7%	6.4%	7.9%	31.4%	40.0%	5.7%	24.3%	14.3%	1.4%	0.7%	0.7%	
水がもったいないから(n=152)	106	117	60	27	14	11	67	76	11	63	43	5	2	1	
	69.7%	77.0%	39.5%	17.8%	9.2%	7.2%	44.1%	50.0%	7.2%	41.4%	28.3%	3.3%	1.3%	0.7%	
環境を守るため(n=64)	36	46	34	7	4	4	33	35	5	37	16	0	1	0	
	56.3%	71.9%	53.1%	10.9%	6.3%	6.3%	51.6%	54.7%	7.8%	57.8%	25.0%	0.0%	1.6%	0.0%	

図 14. 3 志向者と節水の大事さを知る上で大事だと思う経験クロス 30 歳



節水の大事さを知る上で大事だと思うことについても、3 志向者のパターンは微妙にずれている。たとえば「自分で家計のやりくりをする」を見ると、20 歳は「節約(水道料金を抑えるため)」が 74.8%、「もったいない(水がもったいないから)」が 71.1%、「環境(環境を守るため)」が 60.8%の順で並んでいる。この順位は 30 歳でも変わらない。「節約」75.0%、「もったいない」69.7%、「環境」56.3%の順に並んでいる。

「水道料金がいくらかかっているかを知ること」を見ると、こちらでも 20 歳では「もったいない」は 81.3%、「節約」79.9%と僅かの差で順位が入れ替わるが、3 位は「環境」の 66.7%と変わらない。30 歳では「節約」83.6%、「もったいない」77.0%、「環境」71.9%と、「自分で家計のやりくりをする」と同じ順位となっている。

一方、「小学校や中学校の教室で環境教育を体験すること」を見ると、20 歳では「環境」54.9%、「もったいない」36.7%、「節約」29.6%、また 30 歳では「環境」53.1%、「もったいない」39.5%、「節約」が 26.4%と 20 歳、30 歳共に「環境」「もったいない」「節約」の順となっており、1 位と 3 位の差も 20 歳では 25.3%、30 歳では 26.7%と共に大きい。

同様に「湧水の体験をすること」「断水の体験をすること」「テレビや新聞等で飲み水に困っている人々の存在を知ること」についても、その回答率は「環境」「もったいない」「節約」の順に並んでおり、それぞれの 1 位と 3 位の差も大きい。

確かに、「テレビや新聞等で飲み水に困っている人々の存在を知ること」を知っても「節約」としての節水の大事さを知ることはつながりにくい、「環境」との関わりとしての節水の大事さを知る上では有効だろう。「もったいない」は、その中間に位置している。

このように 3 志向者の間では回答のパターンの差が見られたが、20 歳と 30 歳の間で比較すると、

それほど明確な差異が見られるわけではない。

7.4.これから節水をさらに進める上で必要なこと

「これから節水をさらに進める上で重要なこと」で3志向者に差は出てくるのだろうか。

表 25.3 志向者とこれから節水をさらに進める上で必要なことクロス 20 歳

	節水するほど通常より安くなり、水を使うほど通常より高くなる水道料金体系	少量しか出ない蛇口のついた、トイレ、風呂、洗面所	家庭での節水教育	学校での節水教育	企業による節水型商品の開発	行政の取り組み(広報)	マスコミで節水方法を普及	一人ひとりの心がけ	上記以外のこと	これ以上必要ない
水道料金を抑えるため(n=159)	83 52.2%	55 34.6%	36 22.6%	48 30.2%	44 27.7%	30 18.9%	32 20.1%	71 44.7%	3 1.9%	7 4.4%
水がもったいないから(n=128)	57 44.5%	52 40.6%	46 35.9%	46 35.9%	55 43.0%	37 28.9%	32 25.0%	73 57.0%	0 0.0%	1 0.8%
環境を守るため(n=51)	20 39.2%	16 31.4%	21 41.2%	27 52.9%	23 45.1%	27 52.9%	21 41.2%	29 56.9%	0 0.0%	1 2.0%

図 15. 3 志向者とこれから節水をさらに進める上で必要なことクロス 20 歳

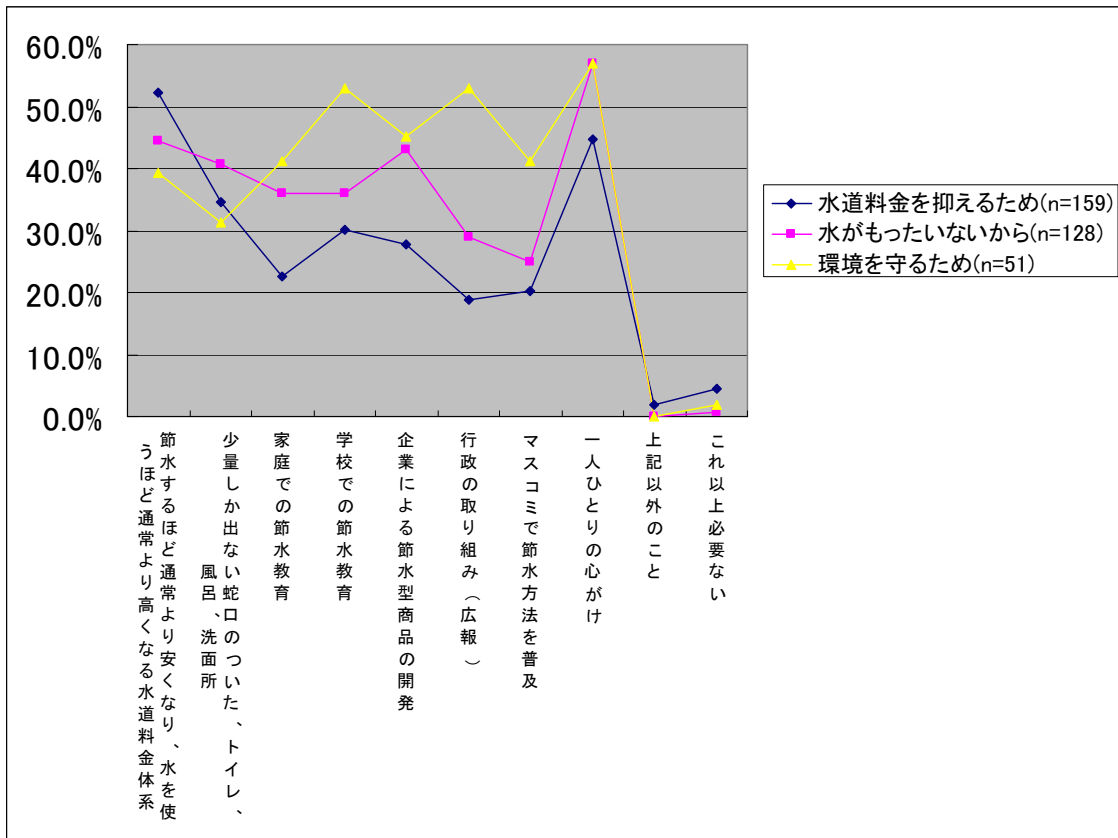
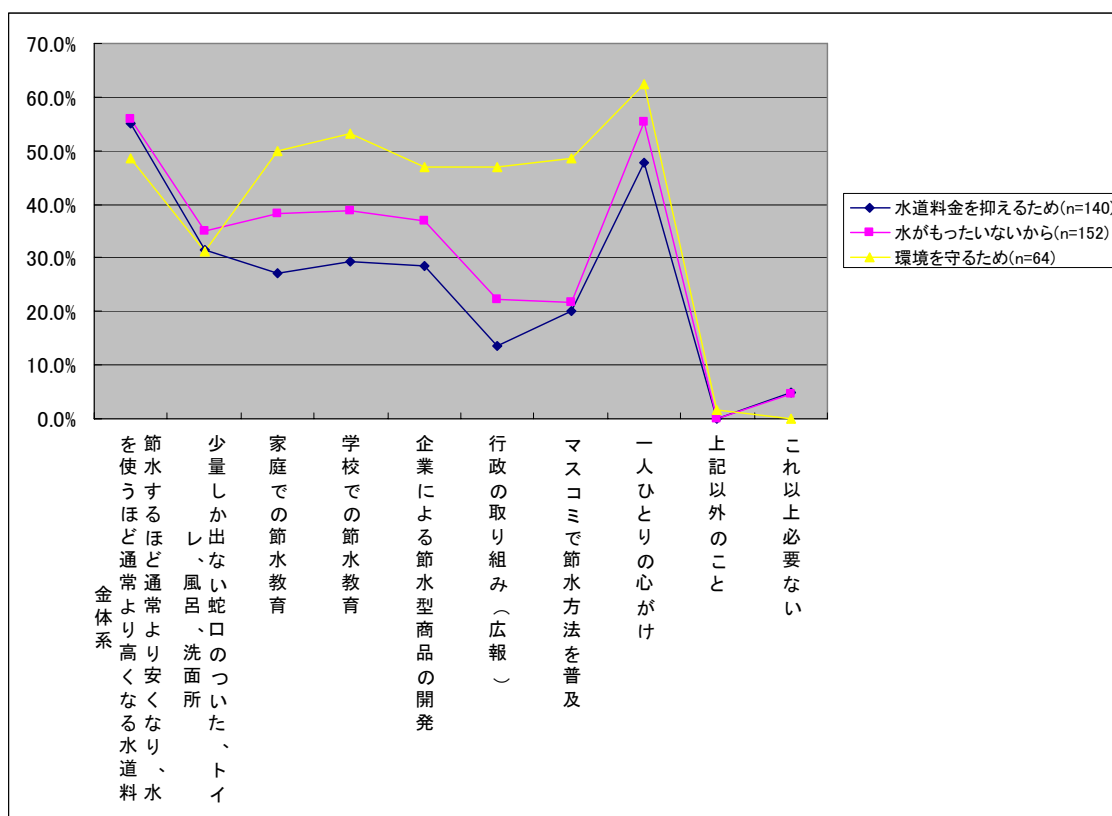


表 26.3 志向者とこれから節水をさらに進める上で必要なことクロス 30 歳

	節水するほど通常より安くなり、水を使うほど通常より高くなる水道料金体系	少量しか出ない蛇口のついた、トイレ、風呂、洗面所	家庭での節水教育	学校での節水教育	企業による節水型商品の開発	行政の取り組み(広報)	マスコミで節水方法を普及	一人ひとりの心がけ	上記以外のこと	これ以上必要ない
水道料金を抑えるため(n=140)	77	44	38	41	40	19	28	67	0	7
	55.0%	31.4%	27.1%	29.3%	28.6%	13.6%	20.0%	47.9%	0.0%	5.0%
水がもったいないから(n=152)	85	53	58	59	56	34	33	84	0	7
	55.9%	34.9%	38.2%	38.8%	36.8%	22.4%	21.7%	55.3%	0.0%	4.6%
環境を守るため(n=64)	31	20	32	34	30	30	31	40	1	0
	48.4%	31.3%	50.0%	53.1%	46.9%	46.9%	48.4%	62.5%	1.6%	0.0%

図 16.3 志向者とこれから節水をさらに進める上で必要なことクロス 30 歳



20 歳について見ると、「節水するほど通常より安くなり、水を使うほど通常より高くなる水道料金体系」は「節約」「もったいない」「環境」の順で明白に分かれている。一方、教育や広報については「環境」「もったいない」「節約」の順に明白に分かれており、必要と思う事柄が 3 志向者の間で異なっていることがわかる。「一人ひとりの心がけ」という回答が多かったが、これも「環境」「もったいない」がほぼ同水準で、「節水」が低いことがわかる。

これが 30 歳になると、「環境」志向者と、「もったいない」「節約」が明白に分かれ、「もったいない」と「節約」が似たパターン、水準を示していることがわかる。